

日本語の複合動詞の組織の分析

概要

レニ ユリア

〇八四二〇一四



日本文学科

文学部

マラナタキリスト教大学

バンドン

二〇一二

日本語の複合動詞の組織の分析

序論

日本語には普遍的で特殊な性格があり、多様な構造のようである。言語によって文が作られ、文は節と句と語から作られる。語は二つがあり、単語と複合動詞であり、単語は一つ形態素から成る。複合動詞は二つ以上の形態素が結び付いて一つの新しい意味になる。複合語は、池上（1998；197）によれば；

”二つ以上の単語が結び付いて一つの単語となったもの。この中には用語の語幹と単語が結合するものも含まれる。”

複合語の中で複合動詞がある。複合動詞は池上（1998；198）によれば；

”動詞の連用形と他の動詞とが複合したもので、両語が意味的に結合したものだ。”

ところがマキノツツイ（2001；626）によれば：

”複合動詞は二つ動詞が結び付いての動詞である。意味は各要素から予測することができない。複合動詞は「買ってあげる」と「買ってみる」と「買っておく」のVて+VまたはVます+Vである。”

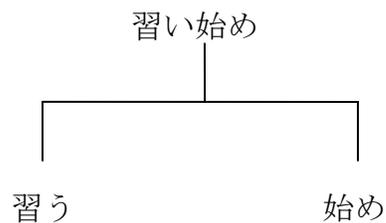
マキノツツイによれば複合動詞の組織には二つがあり、V て+V と V
ます+V である。V2 が 補助動詞場合は V て+V を使う。田頭 ホフ (1
986 ; 7) によれば複合動詞の中のいくつかのドミナントの意味は、その
V1 と V2 の意味的な関係がある。それは :

1. 方法-目的。V1 の活動は方法またはアクション、例 : 殴り殺す。
2. V1 の活動は V2 を完成しない、しかしアクションを完成する、例 : 来合
わせる。
3. 方法-アクション。V1 は V2 のアクションの異同と道具の使用を説明する、
例 : 抱き下ろす。
4. 活動-合図。V2 は V1 の動くの方向を説明する、例 : 見上げる。
5. 活動-強度。V2 は V1 の活動の強度を説明する、例 : 読み上げる、しかり
付ける。
6. 類似の二つ活動。V1 と V2 は誰かが類似の二つ活動を説明する、例 : 喜
び勇む。

本論

牧野筒井 は複合動詞の組織に二つがあり、V て+V と V ます+V である。V ます+V の例文：

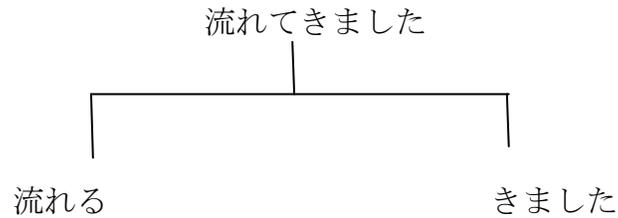
1. 1972年生まれの熊川哲也さんは、10歳でバレエを習い始め、15歳の時、才能を認められてイギリスに留学した。



「習い始め」 はアクティビティ 動詞 とプロセス 動詞から作られている。「習い」と「始め」は他動詞である。始めの意味は何かをすることを始める。上記の文では、踊り子の熊川哲也さんを説明している。熊川哲也さんは10歳でバレエを習い始める。「始める」は一定の時間の意味があり、必ず V1 をしている状態になる。上記の複合動詞では最大の意味が V1（習う）である。上記の意味の複合動詞では、活動一合図を説明する。

ところが V て+V の例文：

2. おばあさんが川で洗たくをしていると、大きなももが流れてきました。



「流れてきました」 は他動詞と自動詞の組み合わせる。活動の中に所と時間と状態の変更がないから、「流れる」と「きました」はアクティビティ 動詞である。上記の複合動詞では過去形である。「流れてきました」は補助動詞から～て形の V2 である。「流れてきました」の意味 は活動-合図である。V2 は V1 の動くの方向を説明する。「～てきました」の機能はももの方向を説明する。

結論

V1 は複合動詞の組織の中で名詞の形に変わらなければならない。過半の日本語の複合動詞はアクティビティ 動詞+プロセス 動詞 で編成される。しかし、プロセス動詞+アクティビティ 動詞に編成される。

複合動詞は新しい意味を生産する。V1 は最良の意味を説明し、V2 は解説または V1 の活動を説明する。しかし、V2 は最良の意味を説明し、V1 は V2 の活動を説明する。複合動詞の意味は二つの動詞の意味を取れる。

DAFTAR ISI

KATA PENGANTAR.....ii

DAFTAR ISI.....v

BAB I PENDAHULUAN

1.1 Latar Belakang Masalah.....1

1.2 Rumusan Masalah.....6

1.3 Tujuan Penelitian.....7

1.4 Metode Penelitian dan Teknik Kajian.....7

1.4.1 Metode Penelitian.....7

1.4.2 Teknik Kajian.....8

1.5 Organisasi Penulisan.....9

BAB II KAJIAN TEORI

2.1 Morfologi.....11

2.2 Semantik.....13

2.3 複合語 (*Fukugougo*).....15

2.4	品詞分類 (<i>Hinshibunrui</i>).....	17
2.4.1	動詞 (<i>Doushi</i>).....	19
2.4.2	自動詞 (<i>Jidoushi</i>), 他動詞 (<i>Tadoushi</i>).....	20
2.4.3	連用形 (<i>Renyoukei</i>).....	22
2.5	複合動詞 (<i>Fukugoudoushi</i>).....	23
BAB III ANALISIS PENGGUNAAN 複合動詞 (<i>Fukugoudoushi</i>) DALAM KALIMAT BAHASA JEPANG		
3.1	V ます (<i>Vmasu</i>) + V.....	29
3.2	V て (<i>Vte</i>) + V.....	51
BAB IV SIMPULAN.....		57
DAFTAR PUSTAKA.....		59
LAMPIRAN DATA 1.....		vii
LAMPIRAN DATA 2.....		xviii
SINOPSIS.....		xxix
RIWAYAT HIDUP.....		xxxiii